

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	272700865		
法人名	特定非営利活動法人アシスト		
事業所名	グループホームせせらぎ荘		
所在地 (電話番号)	〒039-0502 青森県三戸郡南部町下名久井字青柳4番地1 (電話) 0178-76-1070		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 11月 5日	評価確定日	平成 20年 1月 7日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15人, 非常勤 3人, 常勤換算	17.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 円
または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 10月 17日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	82 歳	最低	62 歳
		最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	南部町国民健康保険名川病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景の中に立地しており、のんびりとした佇まいである。園内は広々と開放感がありユニットを挟む形で吹き抜けの中庭があり自然な光が差し明るい雰囲気を作り上げている。  
理念のポイントとして掲げた行動指針が介護に反映され、地域とのふれあいや信頼を大切にスタッフが一人となりケアにあたっている。入居者・スタッフには自然な笑顔が多く、それがエネルギーとなっている。  
施設内外の研修が盛んに行われており、日々の研鑽と医療的なバックアップを活かし、重度化・終末期に向けた取り組みも行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念について信頼関係と笑顔で対応する事を共有化しており、簡潔な表現となっている。また、感染症についてのマニュアルの見直しについて、新しい情報を元に学習されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全スタッフで取り組み、振り返りや見直しが行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者の生活の安定の広がりの方に、少なくとも2ヶ月に1回、運営推進会議を開き、事業所の実情や取り組みについて報告し多くの意見や評価をして頂き、サービスの向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	運営会議の中で意見が言える機会を持ち、利用者家族から直接聞いている。出された意見や要望については、改善に向けて話し合いを行い運営に活かしている。毎月便りを出したり、面会時や電話でも対応も行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	広報を年4回発行し、ホームの活動など紹介し、高齢者の理解・施設の理解をして頂けるように社会見学の間として提供している。地域行事に出向いたり、施設へも足を運んで頂けており、民謡等を披露してくれている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所・スタッフのあるべき姿を皆で考え 1. 自立 2. 信頼 3. 笑顔を理念に掲げ、それに対して具体的な行動指針が掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者を中心に「今」を常に大切に、安心して暮らせるように、日々のケアの中で実践されている。関係性の強化が感じられる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	中学生の社会見学の場やお祭りや敬老会等、地域活動への参加をし、認知症を理解してもらうよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全スタッフで取り組み、振り返りや見直しが行われている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議へは運営者、管理者、主任、副主任の参加を義務付けている他、利用者、家族、地域代表者、行政の方の参加協力が得られ、事業所の実情や取り組みについて報告し多くの意見や評価を頂き、サービスの向上への取り組みが図られている。内容については会議録に起こしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政、医療との協力関係は確保出来ており、利用者が安定した生活を送れるよう取り組まれている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>事例もあり制度についてのスタッフの理解もあり、必要時には相談・支援が行われている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>保護の実例もあり全スタッフが理解され、現場に生かされている。昼のミーティングで法人全体の情報を得る事が出来る仕組みとなっている。必要時には行政との連携も図られている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書にて説明している。重度化や看取りについての説明も含め行っている。説明は初回だけではなく、安心して頂けるように配慮し取り組んでいる。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月便りを出し、本人の状況や金銭の報告を行っている他、面会時には状況を伝え、変化があった時は電話での対応も行っている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中や運営推進会議の中で、家族や入居者から意見や不満・苦情を直接聞いている。出された事は前向きに捕らえ、改善に向け取り組んでいる。又、ユニットの主任がスタッフの意見を集め、毎日の昼のミーティングの時に意見を出し合い運営に生かしている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が不安に陥らないように配慮し新しいスタッフがに入った際は、入居者の事や、業務の事を理解して頂く為に、1ヶ月間は教育係と一緒にシフトを組み対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修は毎月行っている。施設外研修に関しては、報告内容に食い違いがない様に2名は参加できるようにし、伝達研修を行ない、意見や感想の提出をしている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模多機能居宅介護事業所協議会に加入し多くの人が交流会に参加した他、地域ケア会議を通して意見交換したり、見学施設としての受け入れや電話相談も通して常に向上を目指している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急な環境の変化とならない様家族の協力を得ながら、馴染みの物を持ってきて頂いたり、本人が安心感が持てるよう毎月1回は自宅へ行く機会を作ったり、墓参りに出かける等、知人との関係が途切れないようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域の習慣と昔の生活状況等を話題にしながら、又、味付けや作り方の工夫を入居者から教わる等、良好な関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人一人に関心を寄せ、「今」を大切に利用者の意見や希望を尊重し、それに近づけるように努力している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者に合わせ、スタッフ・介護支援専門員が意見を出し合い作成し、家族へ送付し承諾を得ている。</p>		<p>家族の意見や要望も反映した計画の作成が望まれます。</p>
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員の気付きや意見交換を用い毎月評価を行ない、全職員が情報の共有をしている。また、変更が生じた場合には現状に即した新たな計画を作成している。</p>		<p>見直し時においても本人、家族、関係者と話し合い作成し実施する事が望まれます。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>その時々々の利用者や家族・関係者の状況、意向を聞き暮らしの継続に必要な支援が提供されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	木曜日・土曜日以外は毎日協力病院の医師・看護師が来荘され、入居者の状態を見てくれている。本人の希望や治療の必要な場合には家族と協力し受診介助を行っている。入居している方々の理解が得られており、診察までの待ち時間も考慮されている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	思いは揺れるので、変化の都度話し合いを重ねている。医師の協力が得られており、医療との連携に重点をおき介護している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	施設内研修にて個人情報保護法についての理解を深めている。「接遇用紙」を用い、利用者に対して不快・不適切な場面を目にした際は内容を記入し、毎月発表し、日常的な確認と改善に向け事業所全体で取り組んでいる。		
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や気持ちを尊重し、日課に縛られる事なく、ゆったりとした姿勢で向き合い、なるべくその日に希望が叶えられるように工夫しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と一緒に調理・片付けを行っている。職員も同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら和やかに食事をしている。制限がなければ、お酒も楽しめる他、外食なども行っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日、時間は時に決めず、その日に声を掛け確認しながら行なっている。個人に合わせ併設施設の大浴場も利用出来る。日中の方が安心出来るとの事で、現在は就寝前入浴の希望者はないが、希望する場合も検討している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>経験や知識を活かしながら自分達が出来た事を意欲的に行なっている。張り合いや喜びのある生活へも配慮している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>希望に応じた外出や散歩の他、地域の行事等に参加したり馴染みの場所へ出向く等、今までの関係を断ち切らないように支援している。</p>		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による身体的・精神的弊害について理解している。 身体上必要な場合はベット柵を追加する事もあるが、一時的であり、家族に誤解を受けないよう説明し、了解を得ている。入居時に安定剤を服用していた方も服用量が減ってきている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の了解を得ながら必要な場所は施錠しているが、安全で自由な暮らしを支える為、施錠しない時間帯も設けている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが作成されており、見えやすい場所に掲示しているが、地域住民との協力体制作りには欠けている。		身近な地域の人々と日頃より話し合い、訓練を行う取り組みや支援体制作りに取り組んで欲しい。
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量については記録を取り把握している。地域の栄養士に協力を得て献立を立てて頂いている他、調理について助言や指導を頂きながら行っている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに関しては新規に作成して実行している。インフルエンザの予防接種は全員行っている。又、室温計を用いながら、体感に合わせ、換気や加湿にも気を配っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>設置されている物の高さ等、入居者にとって活動しやすい物となっている。又、安全性も考えられている。共用空間には小上がりの畳みのコーナーがありコタツも設置してある他、イス・ソファのスペースも作り、個々に自由に過せるように工夫されている。手作りの作品が飾られたり花を飾る等空間作りを利用者と一緒に行っている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者が今まで使っていた物を持って来て頂けるように説明し、個々に電化製品の持込や、写真や趣味の物を飾ったり位牌なども置かれ、個々が安心して暮らせるように支援している。</p>		

 は、重点項目。